

私の 1 枚、私の一言

雨宮 徳造 (全国グアム島戦友会 幹事)



この写真は 昭和 18 年 5 月、満州北安 686 部隊のもので、これら手元に残っているわずかな写真の一枚と、往時を思い、平成 17 年 6 月 1 日の朝日新聞「声」欄に投稿した一文を、私の一言と致します。

『先日、小泉首相は国会で A 級戦犯について「罪を憎んで人を憎まず」は中国の孔子の言葉だと述べた。だが、中国をはじめ、多くの国が靖国神社参拝に反対しているなかで、小泉首相がここまで参拝にこだわる理由は何だろう。

私は太平洋戦争で 4 年間兵役に服した。旧満州やグアム島で戦い、足に負傷しただけで、

命は助かった。グアム島では 2 万名あまりの戦友が戦死し、多くの遺骨が今でもジャングルに残されている。

われわれは何のために戦い、彼らは誰のために死んだのだろうか。われわれを戦争に駆り立てた A 級戦犯が合祀された靖国神社に、何故祭られなければいけないのか。

これだけ外国から批判のある中で首相が靖国参拝をしても、戦死した兵士が本当に喜ぶだろうか。それよりも早い機会に、国立の霊園墓地を設置して、誰にでも参拝できるようにしてもらいたい。それは既に 35 万名以上の無名戦士が祭られている千鳥ヶ淵戦没者墓苑が良いのではないだろうか。』